

大戸川ダム検証について

1 経緯

平成 22 年 9 月 28 日に国土交通大臣より近畿地方整備局長あてに検証を進めるよう指示があり、大戸川ダムについて検証が進められており、平成 28 年 2 月 8 日に検討の場（第 1 回）・（第 3 回幹事会）が開催された。

2 検討の場（第 1 回）・（第 3 回幹事会）の状況

近畿地方整備局から関係府県市に対し、次の項目について説明され、関係府県市から特に異論は出なかった。

① 治水対策案のパブリックコメント結果

- ・ 16 名から意見提出があり、3 件の具体的な提案があった。

② パブリックコメントを踏まえた治水対策案の追加

- ・ 治水対策案Ⅱ－2 [遊水地（新規遊水地（大戸川沿川））＋河道の掘削] について概略評価の結果、治水対策案として抽出した。
- ・ 治水対策案Ⅱ－3 [瀬田川新堰＋河道の掘削] について概略評価の結果、治水対策案として抽出した。
- ・ 治水対策案Ⅲ－4 [利水容量買い上げ(日吉、高山、青蓮寺、比奈知)＋河道の掘削＋堤防のかさ上げ] について概略評価の結果、コストがⅢ－2、3 案よりも高いため、抽出しなかった。

③ 治水対策案の評価軸ごとの評価と総合的な評価（案）

- ・ 大戸川ダムを含む対策案と概略評価により抽出した 8 案の治水対策案について 7 つの評価軸（安全度、コスト、実現性、持続性、柔軟性、地域社会への影響、環境への影響）について評価を行い、それらの総合的な評価の結果として、最も有利な案は「大戸川ダム案」となった。

3 今後の予定

- ・ 今後は、学識経験を有する者、関係住民、関係地方公共団体の長の意見聴取の手続へと進められる。

※なお、大戸川ダムは淀川水系河川整備計画において「ダム本体工事については、中・上流部の河川改修の進捗状況とその影響を検証しながら実施時期を検討する」となっていることから、ダム本体工事着工にあたっては淀川水系河川整備計画の変更が必要である。

概略評価による治水対策案抽出（案）

大戸川ダム建設事業の関係地方公共団体からなる検討の場（第1回）・（第3回幹事会） 資料-4

治水対策案(実施内容)		概略評価による抽出				※緑色：県で追記
		概算事業費(億円)	判定	不適当と考えられる評価軸とその内容		
現行計画	大戸川ダム	約 3,500				
グループⅠ： 河道改修を中心とした対策案	1 河道の掘削 全区間(2区間)	約4,500	○			
	2 引堤 全区間(2区間)	約17,700	×	・コスト	・コストがⅠ-1案よりも高い。	
	3 堤防のかさ上げ 全区間(2区間)	約5,300	×	・コスト	・コストがⅠ-1案よりも高い。	
グループⅡ： 大規模治水施設 による対策案	1 放水路(大戸川)+河道の掘削	約4,700	○			
	2 遊水地(新規遊水地(大戸川沿川))+河道の掘削	約4,900	○			
	3 瀬田川新堰+河道の掘削	約3,800	○			
グループⅢ： 既存ストックを活用した対策案	1 既設ダムかさ上げ(日吉、高山、室生、比奈知)+河道の掘削	約4,700	×	・コスト	・コストがⅢ-2、3案よりも高い。	
	2 既設ダムかさ上げ(高山、比奈知)+河道の掘削	約4,300	○			
	3 利水容量買い上げ(日吉、高山、青蓮寺、比奈知)+河道の掘削	約3,900 +利水容量買い上げ に要する費用	○			
	4 利水容量買い上げ(日吉、高山、青蓮寺、比奈知)+河道の掘削+堤防のかさ上げ	約5,300 +利水容量買い上げ に要する費用	×	・コスト	・コストがⅢ-2、3案よりも高い。	
グループⅣ： 流域を中心とした 対策案	1 雨水貯留施設+雨水浸透施設+水田等の保全(機能向上)+河道の掘削+利水容量買い上げ(日吉、高山、青蓮寺、比奈知)	約6,100 +利水容量買い上げ に要する費用	○			
	2 雨水貯留施設+雨水浸透施設+河道の掘削+利水容量買い上げ(日吉、高山、青蓮寺、比奈知)	約6,100 +利水容量買い上げ に要する費用	○			

パブリックコメントのご意見を踏まえた治水対策案

注)表中の概算事業費は、表中の「治水対策案(実施内容)」+整備計画事業の概算コストを示したものである。
 ・対策箇所や事業費、数量については現時点のものであり、今後変更があり得るものである。
 ・ダム中止に伴って発生する費用は含まれない。
 ・建設発生土処理費用は、現状の処理場の受入可能量を超える土量が発生する場合においても、全量処分できるものとして算出している。

※緑色：県で追記

評価軸	評価の考え方	評価結果の概要
安全度 (被害軽減効果)	●河川整備計画レベルの目標に対し安全を確保できるか	・河川整備計画レベルの目標に対しては、全ての案において河川整備計画で想定している目標流量を安全に流すことができる。
	●目標を上回る洪水等が発生した場合にどのような状態となるか	・河川整備計画の目標を上回る洪水において、淀川本川、宇治川、大戸川の各河川で計画高水位を超える区間は、いずれの案も有意な差はみられない。
	●段階的にどのように安全度が確保されていくのか	・10年後に完全に効果を発現している案はなく、20年後に完全に効果を発現していると想定される案は「大戸川ダム案」、「瀬田川新堰案」、「既設ダムのかさ上げ案」、「利水容量買い上げ案」、「流域を中心とした対策案(水田等の保全あり)」、「流域を中心とした対策案(水田等の保全なし)」である。
コスト	●完成までに要する費用はどのくらいか	・完成までに要する費用において最も安価な案は、「大戸川ダム案」の3,510億円(うち大戸川ダム残事業費は約478億円)である。
実現性	●技術上の観点から実現性の見通しはどうか	・「瀬田川新堰案」は、琵琶湖沿岸地域に洪水被害を発生させないよう瀬田川新堰からの事前放流が必要であり、より確実に治水上の安全を確保するためには降雨の予測技術の精度向上が必要である。
持続性		・持続性、柔軟性、地域社会への影響、環境への影響については、いずれの案においても有意な差はない。
柔軟性		
地域社会への影響		
環境への影響		

目的別の総合評価（洪水調節）（案）

大戸川ダム建設事業の関係地方公共団体からなる検討の場（第1回）・（第3回幹事会） 資料-6

※緑色：県で追記

- 「大戸川ダム案」
 - 「河道の掘削案」
 - 「放水路案」
 - 「遊水地案」
 - 「瀬田川新堰案」
 - 「既設ダムのかさ上げ案」
 - 「利水容量買い上げ案」
 - 「流域を中心とした対策案（水田等の保全あり）」
 - 「流域を中心とした対策案（水田等の保全なし）」

の9案について、7つの評価軸（安全度、コスト、実現性、持続性、柔軟性、地域社会への影響、環境への影響）ごとの評価は、資料-5に示すとおりである。

- ダム事業の検証に係る検討に関する再評価実施要領細目に示されている「⑤総合的な評価の考え方 i) 目的別の総合評価」（別紙）に基づき、目的別の総合評価（洪水調節）を行った。

●目的別の総合評価（洪水調節）（案）

- 1) 一定の「安全度」（河川整備計画の目標）を確保することを基本とすれば、「コスト」について最も有利な案は「大戸川ダム案」である。
目標を上回る洪水が発生した場合の「安全度」においては、いずれの案も有意な差はみられない。
- 2) 「時間的な観点から見た実現性」として、10年後に完全に効果を発現している案はなく、20年後に完全に効果を発現していると想定される案は「大戸川ダム案」、「瀬田川新堰案」、「既設ダムのかさ上げ案」、「利水容量買い上げ案」、「流域を中心とした対策案（水田等の保全あり）」、「流域を中心とした対策案（水田等の保全なし）」である。
- 3) 「持続性」、「柔軟性」、「地域社会への影響」、「環境への影響」の評価軸については、1)、2)の評価を覆すほどの要素はないと考えられるため、「コスト」を最も重視することとし、洪水調節において最も有利な案は「大戸川ダム案」である。

総合的な評価（案）

大戸川ダム建設事業の関係地方公共団体からなる検討の場（第1回）・（第3回幹事会） 資料-6

ダム事業の検証に係る検討に関する再評価実施要領細目に示されている「⑤総合的な評価の考え方 ii) 検証対象ダムの総合的な評価」（別紙）に基づき、検証対象ダムの総合的な評価を行った。

- ・洪水調節について、目的別の総合評価を行った結果、最も有利な案は、「大戸川ダム案」である。
- ・大戸川ダムは、洪水調節のみを目的とする洪水調節専用（流水型）ダムであることから、目的別の総合評価（洪水調節）の結果を踏まえ、総合的な評価の結果とする。



総合的な評価の結果として、最も有利な案は「大戸川ダム案」である。

※なお、大戸川ダムは淀川水系河川整備計画において「ダム本体工事については、中・上流部の河川改修の進捗状況とその影響を検証しながら実施時期を検討する」となっていることから、ダム本体工事着工にあたっては淀川水系河川整備計画の変更が必要である。

今後の予定

■ :完了 □ :未了

